

公務災害防止事業の推進

安全管理セミナーを実施して

桑名市消防団

1 はじめに

桑名市は三重県の北部に位置する人口14万人の都市です。木曾川・長良川・揖斐川の3大河川が注ぐ伊勢湾最奥部に位置し、西に鈴鹿山脈、北に養老山脈の山並み、東に濃尾平野が広がる、水と緑の豊かな自然環境に恵まれたまちです。

江戸時代から東海道五十三次の宿場町・城下町・湊町として栄え、今でも高速道路や国道、鉄道など主要幹線が集中する交通の要衝として発展を続けています。

また、全国的にも有名なレジャーランドなど県下でも有数の観光都市です。

2 桑名市消防団の概要

桑名市消防団は、明治27年に桑名町消防組として発足し、昭和20年に桑名市消防団となり、平成10年には女性消防団が発足しました。平成16年12月6日に桑名市・多度町・長島町の合併に伴い、桑名市消防団・多度町消防団・長島町消防団を合併し、桑名方面団14分団・多度方面団5分団・長島方面団6分団で構成された定員776名の組織体制となっています。



▲上空から見る木曾川

消防車両についてはポンプ自動車(CD-I型)1台、小型ポンプ積載29台を配備して運用しています。

本市においては、南海トラフ巨大地震の発生が危惧されており、いつ発生してもおかしくない状況にあるといわれています。有事の際の消防団の組織力、即時対応力、そして地元消防団が持つ住民や地域的な特性などに関する情報力は非常に重要であり、『自分の町は自分で守る』という心構えが大規模災害時には非常に大きな力を発揮すると考えております。

主な活動としては、地域の自主防災訓練への参加・夜間防火広報・普通救命講習の普及活動など地域に密着した活動を行っています。

3 安全管理セミナー開催に至った経緯

桑名市消防団は、平成25年12月に災害時活動要領・津波災害時の行動基準・無線通信運用基準を策定し、初動体制及び活動に関する事項を明確化してきました。しかし、その一方で例年になく公務災害件数が多く発生しました。そのことから消防団活動には、目に見える危険だけではなく、



▲国の重要文化財に指定された六華苑

多種多様な危険が潜んでおり、これらの危険からどのようにしたら事故・けがを防ぐことができるのか、どうしたら適切な行動・対応ができるのか、もう一度、原点に戻り安全管理の基本を学び直そうということで、年度初めに副分団長以上の幹部を対象に安全管理セミナーを開催する運びとなりました。

4 安全管理セミナーを実施して

平成26年4月20日（日）長島防災コミュニティセンターにおいて、団長をはじめ副分団長以上の団員65名が参加し、セミナーを実施しました。指差し唱和では講師の安江氏の大きな声に合わせて65名の団員が一斉に声を揃え『桑名市消防団 ゼロ災でいこう ヨシ!』など一体感のある大きな声がホール内に響き渡りました。

団員たちの生業で行っているようなKYTではなく、消防団用のS-KYTなので講義では、なるほどといった声も上がりました。それから事故の予防策として健康管理についても触れていただきました。消防活動は重労働だということを数値で表してもらったことで団員もどれくらいの活動をしているかを認識できたと思います。また、日常生活において健康な体づくりが事故・けが防止にいかんたいせつなのかということも再認識する

ことができたと思います。

このようなセミナーを行ったのは初めての試みで、1時間半という短い時間でしたが指差し唱和やスライド・ビデオなどを用いた座学の研修を受ける団員の真剣なまなざしやアンケートの内容を見て非常に有意義な研修となったのはいうまでもなく、団員の安全管理や危険予知に対する意識改革が行えたと思っております。

5 おわりに

近年の災害形態は多種多様で大規模化しており、消防団活動においても潜在的な危険性が増加しています。また昨年は異常気象により各地で豪雨災害が多発しました。桑名市においても三大河川の隣接地域ということもあり過去には伊勢湾台風などの災害も発生しています。市民が消防団員に寄せる期待も年々高まってきており、有事の際のリーダー的な役割を担っています。しかし、その増加する期待や責務により公務災害は、決してあってはならないことでもあります。消防団員が犠牲とならないようにこれからも災害に対しての訓練及び研修などを行い、地域に根付いた活動を心がけ公務災害ゼロを目指して活動をしていきたいと思っております。

